

社会福祉法人敬愛会

シクラメン通信



社会福祉法人敬愛会 シクラメン  
 〒509-7321 中津川市阿木2811-1  
 TEL 0575-63-3232 FAX 0573-63-3233  
 H P https://www.cyclamen.or.jp/

◇清流の国ぎふ健康経営宣言企業登録事業所  
 ◇岐阜県新はつらつ職場づくり宣言登録事業所  
 ◇岐阜県介護人材育成事業者認定事務所：グレード2



令和8年度が始まりました。当施設「シクラメン」は、本年10月で事業開始から丸25年を迎えます。特養から始まり、今ではグループホームや包括支援センターなど、地域の生活を支える多角的なネットワークへと成長することができました。3月末には米国の大学教授らが視察に来訪。家族中心のアメリカと、施設介護が支える日本との違いについて熱心な質問を受け、

日本の介護を支える「職員の質と量」の大切さを再認識いたしました。現在、職員確保には苦心しておりますが、25周年という節目に今一度初心に立ち返り、理念である「敬愛の心」「地域に愛され、地域と共に」を全職員が再確認し、利用者様やご家族様との信頼関係を大切に、誠心誠意取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

お仕事フェス参加！  
 未来の後輩たちへ贈る、介護のココロとワザ



社会福祉法人 敬愛会  
 【理事長】 渡邊 忠義

体験レポート：先輩から後輩へ

先日、ひとまちテラスで開催された、子どもたちを『後輩』として迎える『お仕事フェス』に参加しました。今回のミッションは、着替えのサポート、バイタルチェック。さらに、ゼリーの試食を通して、体の不自由な方が食べやすいよう「どんな食器や道具を選べばよいか」を自ら考え、実践してもらいました。単に「やり方」を教えるのではなく、「相手が今どう感じているか、常に声をかけ、気持ちに寄り添うこと」という、私たちが一番大切にしている心得を伝授させていただきました。後輩たちは真剣なまなざしで、その「心」をしっかり受け止めてくれました。



後輩＆保護者の声 先輩（職員）より一言

- \*後輩（子供たち）より：  
 「家でもおばあちゃんの手伝いをしているけれど、知らないことがたくさんあって勉強になった！」「大変なこともあったけど、すごく楽しかった」
- \*保護者の皆様より：  
 「相手の気持ちを考えて声をかける大切さが、子どもに伝わっていて感動した。」「普段は人見知りな子が、自ら進んで声をかける意外な姿に可能性を感じた」
- \*先輩（職員）より  
 介護の仕事をつらさに捉え、前向きに取り組む後輩たちの姿が印象的でした。「相手に寄り添う心」は高齢者の方に対してだけでなく、日常で困っている誰かを助けるときも同じです。今回の体験が彼らの優しい未来への一歩になれば嬉しいです。



お待ちしております

特養シクラメン



お花見

近くの親水公園へお花見に行ってきました。満開の桜はとてもきれいで、お天気が良かったことも相まって、全身で春を感じることができました。



面会のご案内

4月より、面会時間内であれば、予約なしで面会可能です。注）面会中止日がございます。また、入浴のタイミングなどございますので、事前にお電話いただけますとスムーズに面会が可能です。



インスタグラム

日々の皆様の様子やお知らせなどをインスタグラムを通して発信しています。ぜひフォローをお願いします。

CYCLAMEN\_TOKUYO



求人のご案内

シクラメンでは一緒に働いてくれる職員を募集しています。看護・介護休暇が有給で取得できるなど、福利厚生が手厚い職場です。まずは相談から！連絡お待ちしております♪

今月のピックアップ  
世界が注目！  
日米の教授陣が当施設を視察

海を越えて学びに日米の専門家が認めた  
『顔の見える連携』



▲当施設を熱心に視察する教授陣。今回来訪されたノースカロライナ大学は、医療・看護分野で全米トップクラスの評価を受ける名門校です。当施設の「他職種連携」が、世界基準の専門家からも高い関心を集めました。



リアルな課題に向き合う  
「現場の知恵」

見学では、人手不足への対応や移動支援、緊急時の体制など、現場ならではの工夫を共有。制度だけでは解決できない「生きた支援」のあり方に深い共感をいただきました。

日米の教授陣が当施設を視察

中津川市地域医療総合センター所長兼阿木診療所の医師でもある、伴信太郎先生は名古屋大学の教授でもあります。そのご縁で、米・ノースカロライナ大学と名古屋大学の教授陣が地域医療と介護の現場を学ぶため当施設を訪れました。高齢化社会という世界共通の課題に対し、私たちの取り組みが「学びのモデル」として選ばれたのです。地域住民の皆様をどう支えているか等、熱心な視察が行われました。

共に語り合った

「これからの地域ケア」

視察のハイライトは、日米のケア体制を比較する対話でした。人手不足などの共通課題を確認しつつ、当施設のように医療と介護が密接に連携している姿に「理想的な形ですね」と心強い言葉をいただきました。今回の交流で得た日米の知恵を、今後のより良いサービス提供に活かしてまいります。

驚きと称賛！生活そのものが「介護予防」に

高齢化率が高い一方で、介護度が低い。その理由は、皆様が日頃から畑を耕し、健やかに暮らしているから。先生方は「日常の営みが理想的な介護予防になっている」と日本の長寿の秘訣に感銘を受け、この地域の底力を高く評価されました。



◀日米教授陣と職員

これからも地域の「安心の拠点」として

世界各国の知恵も学びながら、私たちはこれからも「この地域にこの施設があってよかった」と皆様に思っていただけのように、一歩ずつ歩んでまいります。今回の視察で再確認した「地域密着」の価値を胸に、専門性を磨き、皆様の笑顔あふれる暮らしを全力でサポートし続けます。



特定技能生が

就業しました

今年2月、ミャンマーから2名の新しい仲間が当施設に加わり、外国人材が14名になりました。

特筆すべきは、二人の日本語力！N3レベルの壁を感じさせない会話力に、職員の間でも驚きの声が上がっています。

「毎日が勉強です」と語る二人は、先輩の指導を受けながら現場のイロハを吸収中。持ち前の明るさと勤勉さで、すっかりチームに溶け込んでいます。毎日自転車で元気に通勤中です。慣れない日本の道路を安全運転で通っていますので、地域で見かけましたら、ぜひ温かく見守って頂ければ幸いです。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



チェリーソー

日本語がとても堪能で、仕事の正確さと「よく気がつく」細やかな配慮はスタッフも驚くほど。おとなしく素直な人柄ですが、常に利用者様のそばに寄り添い、積極的に動いてくれる頼もしい存在です。



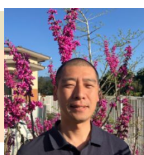
チョ ジンテット

毎日目標を立てて挑む、前向きな努力家です。素晴らしい吸収力で仕事を覚え、大きな声での声掛けも増えてきました。日本語での指導にも素直に実践する一生懸命な姿が、周囲に活力を与えています。

ボランティアの受け入れを再開しました

コロナ禍で中止していた施設内へボランティアの受け入れを再開しています。面会もご利用者様のお部屋でできるようになりました。地域の皆様との交流もできるようになればと願っております。

今月のイチ押し！はこの人！



山口 大介さん  
居宅のケアマネとグループホームの計画作成担当を兼任しています。昨年からは阿木でコメ作り挑戦しています。米作りは初心者です。色々教えてください。よろしくお願ひします。

[編集後記]

夢が仕事になるって、とっても素敵なことですよね。今年年長になる息子の夢は、「大きくなったらレーシングカーを運転したい！」です。紙面でご紹介した「お仕事フェス」のようなイベントがあれば積極的に参加して、様々な「お志事（お仕事）」を経験し、親子で一緒に夢を膨らませていきたいと思っています。（林）